

# 1 開催までの経緯

## (1) 開港 150 周年に向けた横浜市の体制

### ア キックオフ

横浜市は、横浜プロモーション推進事業本部（当時）で開港 150 周年に向けた準備を行うことを決め、平成 16 年 6 月 2 日に関係局の運営責任職によるプロジェクトチームを作り、開港 150 周年記念事業に向けたスタートを切りました。

### イ 専任組織の設置

平成 17 年 4 月 1 日、「開港 150 周年に向け、総合戦略の構築やイベントの開催支援のため」横浜プロモーション推進事業本部に開港 150 周年担当課長を置き、「横浜開港 150 周年～市政 120 周年～基本ビジョン」の策定に取り組みました。

平成 18 年 4 月には、開港 150 周年となる 2009 年を契機に創造都市横浜を一層発展させていくため、横浜プロモーション推進事業本部と文化芸術都市創造事業本部を改組し、「開港 150 周年・創造都市事業本部」を設置。「横浜開港 150 周年～市政 120 周年～基本計画」を策定し、横浜開港 150 周年推進協議会と連携しながら、「横浜開港 150 周年記念事業コアイベント実施計画」を策定しました。また、地元経済界など民間と行政が一体となった財団法人横浜開港 150 周年協会の設立支援を行ってきました。

### ウ 庁内組織の確立

平成 17 年 7 月 8 日、「民が主役の開港 150 周年記念事業」を推進するとともに、それを契機に「チャンスあふれるまち横浜」の実現を図るため、開港 150 周年に関わる主要な方針の策定や庁内調整を行うことを目的とした「横浜開港 150 周年記念事業推進会議設置要綱」を制定しました。

同日、市長を議長とし、全局区事業本部長をメンバーとする第 1 回「開港 150 周年記念事業推進会議」を開催。効率的な事業の推進に必要な調整を行うため、関係部長で構成する「支援会議」と関係課長・係長からなる 2 つの部会（関連戦略事業検討部会、盛り上がり創出部会）を設置しました。

平成 20 年 2 月 7 日、開港 150 周年記念事業実施にあたり各区局事業本部間の調整が必要な緊急的な課題を解決するために、2 つのワーキングチーム（マザーポート事業調整、地域盛り上げ推進）を設置しました。

平成 20 年 7 月 18 日、全庁的に開港 150 周年記念事業を推進する体制を強化するため、「開港 150 周年記念事業推進会議」を改組し、副市長を本部長とする「開港 150 周年記念事業推進本部」を設置しました。区局事業本部を横断して対応しなければならない具体的な課題に対応するため、新たに 5 つの部会（マザーポート事業推進、危機管理、交通対策、接遇・儀典、開港 150 周年記念式典）を設置しました。

## (2) 横浜市における取組

### ア 「横浜開港 150 周年～市政 120 周年～基本ビジョン」

横浜市では、平成 21 年に迎える横浜開港 150 周年における記念事業の取組指針となる「横浜開港 150 周年～市政 120 周年～基本ビジョン」を平成 17 年 6 月 2 日に公

表しました。

その基本理念は、横浜開港 150 周年を契機に、港や先人たちが果たしてきた役割について改めて評価するとともに、「横浜ならではのフロンティア・スピリッツ」など、これまで培ってきた独創性や進取性といった、横浜の誇れるものを、改めて今日の横浜の様々な面に活かすことにより、次世代の横浜が、夢や希望を持てる、そしてチャンスあふれるまちであるための礎を築くということ、この節目となる記念すべき年を、365 万市民全体で盛大に祝福するとともに、これに共感する多くの市内外の人々にも一緒に祝っていただくこと、としました。

このような観点から、開港 150 周年を、5 つの契機としてとらえ、これらの実現をとおして、「チャンスあふれるまち横浜」を創造することをめざすとしてきました。

#### 【5 つの契機（目標）】

- ① 港と先人の業績への感謝及び賞賛の契機
- ② 市民であることの一体感を醸成する契機
- ③ 次世代の横浜が夢や希望にあふれるまちであるための礎をつくり、再発展を図る契機
- ④ 「横浜らしさ・ならでは」へのこだわりと創造の契機
- ⑤ 集客力を高める絶好の契機

また、開港 150 周年記念事業のイメージ像として、「記念イベント」、「民の自主企画事業」、「横浜市の関連戦略事業」の 3 つの枠組みで構成され、「民が主役の開港 150 周年記念事業」を基本的な考え方として、各事業の具体化に向け取り組んでいくこととしました。

この中で、「記念イベント」のイメージ像として、

- ① 「来場者が港や船に楽しめるイベント」
- ② 「横浜発祥の出来事・モノにまつわるイベント」
- ③ 「日本初・世界初など国内外からの注目度が高いイベント」
- ④ 「来場者が自由に参加して楽しむことができるイベント」

という 4 つを示しました。

## イ 「横浜開港 150 周年～市政 120 周年～基本計画」

「横浜開港 150 周年～市政 120 周年～基本ビジョン」の具体化を図る目的で、平成 18 年 6 月 2 日に「横浜開港 150 周年～市政 120 周年～基本計画」を公表しました。

基本計画では、開港 150 周年事業を、「横浜の新たな顔づくり・まちづくり推進プロジェクト」、「市民力・地域力発揮プロジェクト」、「次世代育成・人材育成プロジェクト」、「横浜開港“ハッピーバースデー”プロジェクト」の 4 つのプロジェクトとして推進していくことを示しました。

この中で、開港 150 周年記念イベントは、開港 150 周年記念式典とともに、祝祭として「横浜開港“ハッピーバースデー”プロジェクト」を構成する事業として位置づけられ、『ベイサイドステージ』と『ヒルサイドステージ』の 2 箇所で開催することを初めて示しました。

『ベイサイドステージ』では、みなとみらい地区・日本大通り・大さん橋・象の鼻地区・山下公園などの臨港エリアで、「港」と「歴史」をテーマに 2009 年の 4 月から 9 月にかけて開催することを、『ヒルサイドステージ』では、ズーラシア未整備地区で、「自然・環境」、「地域」、「共生」、「市民との協働による制作・運営」をテーマに平成 21 年 6 月から 8 月にかけて開催することを示しました。

その後、横浜市は平成 18 年 9 月 6 日に、開港 150 周年記念式典及び開港 150 周年記念イベントのプロデューサーを記者発表し、開港 150 周年記念式典のプロデューサーが宮本亜門氏、ベイサイドステージが日比野克彦氏、ヒルサイドステージが小川巧記氏に決定しました。

### ウ 「横浜市中期計画」重点事業「横浜開港 150 周年記念式典及び記念イベント」

平成 18 年 12 月に発行された「横浜市中期計画」の重点事業として、開港 150 周年を、横浜の歴史や先人の業績を知る機会にするとともに、「チャンスあふれるまち」の創造に向けて動き出している横浜を発信するため、記念式典並びに記念イベントを開催し、市民とともに祝うことを掲載しました。

### エ 「横浜開港 150 周年記念事業コアイベント実施計画」

基本計画で示した開港 150 周年記念イベントの開催概要を具体化するため、平成 19 年 5 月 22 日に「横浜開港 150 周年記念事業コアイベント実施計画」を公表しました。

この計画では、基本ビジョンに謳われた「5つの契機」を開催の趣旨とし、コミュニケーションの目標は、『来場者が魅力と活力にあふれる「チャンスあふれるまち 横浜」を感じることにし、全体テーマは「出航」としました。

実施概要と基本目標は次のとおりです。

- ・事業名称：横浜開港 150 周年記念コアイベント
- ・会 期：平成 21 年 5 月 1 日～9 月 27 日 150 日間
- ・会 場：[テーマステージ] みなとみらい 21 新港地区 8 街区  
[ベイサイドステージ] パシフィコ横浜展示ホール、赤レンガ倉庫イベント広場、大さん橋ホール  
[ヒルサイドステージ] 横浜動物園の森公園(ズーラシア未整備地区)
- ・主 催：財団法人横浜開港 150 周年協会・横浜市
- ・集客目標：500 万人以上（関連イベント含む）

この実施計画については、基本計画で示された 150 周年記念イベントの開催概要を具体化するため、横浜市が「横浜開港 150 周年記念事業コアイベント実施計画」を策定する事業者をプロポーザル方式で公募し、ベイサイドステージは(株)博報堂 JV、ヒルサイドステージは(株)アサツー ディ・ケイが受託しました。

## (3) 市会の取組

### ア 開港 150 周年事業推進特別委員会の設置

平成 17 年 5 月 30 日の横浜市会本会議において、「開港 150 周年事業推進特別委員会」の設置が決定し、同 6 月 28 日第 1 回委員会が開催されました。

- ◎平成 17 年度 委員会 4 回、視察 2 回
- ◎平成 18 年度 委員会 2 回、視察 2 回
- ◎平成 19 年度 委員会 3 回、視察 2 回
- ◎平成 20 年度 委員会 3 回、視察 2 回

### 開港 150 周年事業推進特別委員会委員名簿

役職	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
委員長	牧嶋 秀昭	横溝 義久	森 敏明	谷田部 孝一
副委員長	瀬之間 康浩	斉藤 達也	福田 進	佐藤 茂
副委員長	坂井 太 森 裕之(H18.4.13~)	米盛 裕子	高橋 正治	福島 直子
委員	清水 富雄	佐藤 祐文	田野井 一雄	斉藤 達也
委員	関 貞彦	関 貞彦	角田 宏子	藤代 耕一
委員	藤代 耕一	藤代 耕一	横山 正人	山下 正人
委員	横山 栄一	山田 一海	中尾 智一	飯田 助尚
委員	川辺 芳男	浅川 義治	谷地 伸次	川辺 芳男
委員	中島 憲五	飯沢 清人	大滝 正雄	大滝 正雄
委員	大滝 正雄	川辺 芳男	内田 重雄	今野 典人
委員	手塚 静江	加納 重雄	田中 紳一	若林 智子
委員	米盛 裕子	福島 直子	井上 さくら	関 美恵子
委員	大桑 正貴	井上 さくら	大桑 正貴	片桐 紀子

#### (4) 財団法人横浜開港 150 周年協会の設立

開港 150 周年記念イベントを実施する主体については、横浜市と横浜商工会議所が協議し、平成 15 年 11 月 20 日に横浜商工会議所内に「近代日本開国・横浜開港 150 周年記念事業推進協議会」が設立され、その後、この組織の再編・強化を図った「横浜開港 150 周年推進協議会」が平成 18 年 4 月 28 日に設立されました。

さらに、この組織を母体とした公益法人として、平成 19 年 2 月 27 日に『財団法人横浜開港 150 周年協会』が設立されました。この際、横浜市では、官民一体となって開港 150 周年記念事業を成功させるため、基本財産の出えん、事業費の補助、職員の派遣協力を行っていくこととしました。

設立の趣旨は、「横浜開港 150 周年（2009 年）を迎えるに当たり、横浜開港 150 周年記念に関する事業を実施し、及び支援することにより、神奈川県内市町村、開国 5 か国、開港 5 都市等との国際交流及び地域交流を深め、これまでの先人たちが積み上げてきた実績等を引き継ぐことで次世代の子どもたちを育成するとともに、観光施策を積極的に推進し、もって国際交流の促進及び地域の活性化に寄与することを目的とする」ものであり、市民・企業・行政が連携して記念事業を進めていくこととしました。

#### (5) 財団法人横浜開港 150 周年協会における取組

##### ア 横浜開港 150 周年記念テーマイベント「開国・開港 Y+150」の実施設計策定

平成 19 年 4 月 1 日から本格的な業務を開始した『財団法人横浜開港 150 周年協会』では、「横浜開港 150 周年記念事業コアイベント実施計画」を基本として、開港 150

周年記念イベントの具体化と運営準備を行うため、イベントの実施設計及び制作運営を委託する事業者を、プロポーザル方式により公募しました。

その後、各種業者選定の事務手続きを経て、平成19年7月19日に、ベイサイドステージについては(株)博報堂JV、ヒルサイドステージについては(株)アサツー ディ・ケイが受託業者として決定されました。

平成19年10月11日には、開港150周年記念テーマイベントの概要を発表し、その後、平成20年3月、ベイサイドステージ及びヒルサイドステージの実施設計を策定し、平成20年5月に、理事会への報告を経て、「メインコンテンツ決定」の発表を行いました。

## イ プロデューサーの決定

協会設立以前は、式典・テーマイベントに共通する事項については、宮本亜門氏・小川巧記氏・日比野克彦氏の3人のプロデューサーで打合せを行い、横浜市と協会に提案する形を採っていました。

各プロデューサーの役割については、市・協会・プロデューサーと協議し、式典に関することは、宮本亜門氏の専任事項とし、横浜開港150周年記念コアイベントに関することは、小川巧記氏と日比野克彦氏の専任事項としました。

協会では、横浜市が選任していた小川巧記氏・日比野克彦氏に、引き続き2009（平成21）年度までプロデュース業務を委託することとし、平成19年4月に契約を締結しました。

プロデューサーの業務内容は、小川巧記氏が総合プロデューサーとして総合的な演出・監修に関することを担当し、日比野克彦氏がアートプロデューサーとしてイベント全体のアートにかかる監修を担当されることとなりました。

## ウ 開国博 Y150 の開幕準備

開港記念日の平成20年6月2日に、第1期前売り入場券の販売を開始し、105万7千枚を販売しました。12月1日から第2期前売り入場券の販売を開始し、1期、2期合計で121万5百枚を販売しました。

また協賛金獲得に向けて、平成19年10月に「事業説明会」を開催し、400社の企業が参加しました。その後、平成20年9月、12月、平成21年4月の3回にわたって協賛企業を発表し、計94社に協賛をいただきました。

運営体制の整備では、会場内で案内業務や環境美化活動などを行うボランティアの募集や研修、シャトルバス運行などの交通対策、イベント情報などの提供を行う情報センターの立ち上げなど、開幕に備えた運営面の準備を進めました。

また会場の整備では、開国博 Y150 のうち、ベイサイドエリアでは「はじまりの森」や「トゥモローパーク」などを、ヒルサイドエリアでは「竹の海原」などの整備を行いませんでした。

## エ 開国博 Y150 の開催

4月17日から19日に、プレイイベントとして「ラ・マシン・スペクタクル」を開催しました。横浜の街を劇場として行われたスペクタクルは国内外から大きな注目を集め、3日間で62万人の観客を動員しました。

4月27日に開国博 Y150 全体の開幕を祝う開幕式を開催し、7月4日にヒルサイド会場の開会式を行いました。その後、総入場者数716万6,300人、有料入場者数123万9,325人を集めた開国博 Y150 は、9月28日大きな事故もなく無事閉幕しました。